

総務文教委員会記録

令和6年6月11日（火）
9時57分～11時22分
第2委員会室

【委員】 芦谷委員長、沖田副委員長、村武委員、岡本委員、永見委員、西田委員

【議長・委員外議員】

【事務局】 松井書記

【議題】

- 1 【取組課題】 地域交通について
- 2 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[9 時 57 分 開議]

○芦谷委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は6名で定足数に達している。それではレジュメに沿って進める。

1 【取組課題】地域交通について

○芦谷委員長

先月開催した地域井戸端会において、当委員会では取組課題として研究している地域交通について市民の意見を拝聴した。各委員が作成された報告書の中から地域交通に関する部分を抜粋し、資料として配付している。まずは各委員から意見交換の結果や感想を發表していただき、今後どのように進めていくか、方向性を出そうと思っている。

○沖田副委員長

地域井戸端会ではいろいろな意見が出たが、総括的に述べると、一番課題だと感じたのは旧那賀郡と旧浜田市の制度の違いである。制度を使っている地区と使っていない地区があり、同じ自治体内とは思えない差がある。長浜まちづくりセンターでは、そもそもあいのりタクシー事業を知らない状況だった。美又と白砂まちづくりセンターではあいのりタクシーを活用して好評だと聞いたが、課題もいくつかあるという気がした。あいのりタクシー事業にはまだまだ改善の余地があると感じた。

○村武委員

私は岡見、小国、今市、安城のまちづくりセンターと子育て支援センターすくすくに行った。すくすく以外では、主に高齢者の移動手段を課題として持っておられた。あいのりタクシー事業は実施している地域もあるが、2人以上集めるためのマッチングを担う職員がいないこともあり、難しいと言われた。1人で利用できればうれしいという意見もあったが、1人になるとあいのりタクシー事業にはならないと思った。

それから、あいのりタクシー事業を取り入れてはいるが、個人負担のところにもまちづくり交付金を利用して助成を進めていくことを考えているところもあった。

先ほど、あいのりタクシーのマッチングをする職員がいないという話をしたが、安城まちづくりセンターは地区サポーターを導入したが、地区サポーターは新しい事業でないと関わるできないと担当課から言われたそうで、今までもやっていたあいのりタクシーには関われないと言われていた。

安城まちづくりセンターは、予約型乗合タクシーをほとんど利用されていないということで、予約するのが面倒だと言われていた。朝だけでもスクールバスの同乗ができたらうれしいとも言われていた。

今市まちづくりセンターでは、高齢者だけでなく中学生や高校生の移動手段も必要だと言われていた。

すくすくに関しては、路線バスはあるが、それ以外の交通手段を持たない子ども連れの保護者への支援が欲しいと言われた。

今市まちづくりセンターでは、m o b i というタクシー定額乗り放題のサービスを取り入れている自治体があると聞いたので、この委員会で調査してみても良いと思った。

○岡本委員

私は三隅、国府、市木、杵束、久佐のまちづくりセンターに行った。市境である三隅や市木のまちづくりセンターであいのりタクシーの説明をした折に、三隅から益田市へ行くのは対応してもらえるのか、また、益田市からの帰りも検討してもらえないだろうかという意見が出た。市木でも同じようなことを聞いた。市木は邑南町の邑智病院を利用する際に、行きだけでなく帰りもあいのりタクシーが使えるようにしてほしいという要望が出た。印象的だったのは、市木まちづくりセンターで出た話の中で、自治会輸送や個人的にどこかに乗せて行ってあげるときに、事故があった場合に誰が責任を取るかがかねてから問題になっていたようだ。高齢化が進んで免許返納者が増える中で、運転手の確保も含めてコミュニティワゴン輸送を検討したいという話があった。

杵束まちづくりセンターでは、ガソリンスタンドやAコープが今後なくなった場合に、買い物弱者を含め、交通手段が問題になるだろうという意見が出た。コミュニティワゴン輸送も今後検討しようといった自主的な発言があった。

久佐まちづくりセンターでは、隣のまちづくりセンターとの連携した輸送も考えてほしいという意見が出た。

○永見委員

私は大麻、波佐、三保、今福、都川まちづくりセンターへ伺った。大麻まちづくりセンターでは、あいのりタクシー事業にはまだ取り組んでいないが、自治会で取り組むと決めたので今から準備するとのことだった。主に公共交通については国道9号が主体になっているので、そこへ向けたアクセスの話も出たが、折居地区は国道9号までの距離が近いので徒歩で行けるという話があった。

波佐まちづくりセンターでは、あいのりタクシーは予約して利用できるまで2週間くらい掛かることもあり不便だと言われた。波佐地区は石見交通の路線バスが走っているのに、あいのりタクシーはあまり利用されていない状況だった。あとは波佐地区では自治会が無料輸送タクシーをやっているのに、それが高齢者の移動手段になっている。車は波佐地区からの提供で、運転手も無償でやっていると言われた。

三保まちづくりセンターでは、予約型のジャンボタクシーを活用して1回500円のトライアルへの買い物ツアーに取り組んでいるという話があった。あいのりタクシーの話も出たが、ジャンボタクシーのほうが利用が多いようだ。

今福まちづくりセンターは、私も携わっているので状況が分かっているが、あいのりタクシーは80万円の限度額いっぱいまで運行している。

先ほど岡本委員からも話があったが、他地区と連携した利用が今はなかなか難し

いということで、久佐や美又や今福の人が一緒にサークル活動しているが、あいのりタクシーを活用しての移動となると、それぞれのまちづくりセンターの所管になるので利用が難しい。現在は、今福が主催するものについては、久佐や美又の方はタクシー対応してもらっている。このことは以前総務文教委員会でも話をしたが、これはまちづくり委員会で連携、調整して、何とか使えるように調整してほしいというのが執行部の声だったので、今福まちづくり推進委員会の総会の際にその話をしておいた。しかし、今回あいのりタクシーについては話が出なかった。

都川まちづくりセンターでは、あいのりタクシーは補助額いっぱい使っているということと、邑南町の上田医院が閉院になるということ、都川地区からは主に予約型乗合タクシーで通っていた人が多いらしいが、邑智病院の診療所があそこに開設されるのではないかと、これは邑南町の議会の結果によるが、もしあそこに診療所ができるのであれば、予約型乗合タクシーのダイヤ改正をしてもらって、午後からの診療に利用できるようにしてほしいということだった。あいのりタクシーは浜田への通院や買い物などに補助額いっぱいまで十分活用させてもらっているという話だった。

○西田委員

木田まちづくりセンターでは、住民同士が助け合って、独居高齢者の通院なども助けているらしく、その辺は割と進んでいると感じた。ただ、現状の地域公共交通と住民ニーズが合っていないので、もう少しその辺は調査するべきだと言われていた。将来的にはかなり危機的状況になるということ、現在の状況になったのも住民が公共交通を利用しなかったからであり、こういう結果になるのはやむを得ない状況だが、一番良いのは自治会輸送ではないかと、三隅の井野がやっている「いのっち号」の取組を視察したいと言われていた。

井野まちづくりセンターでは、いのっち号として自治会輸送をしているが、三隅地域内の移動だけで、本当は浜田方面に行きたいが行けないというのが課題である。また、当初は運転手がたくさん登録していたが、高齢化などで運転手の確保がだんだん難しくなってきたので、地域外からの運転手を増やすことを考えなければいけない。ただし地域の地理的な実情を知らない人だと、地域住民をドア・トゥ・ドアで輸送するのも難しいので、どうしたら良いかももう少し検証するらしい。運転手の確保が一番の課題になっている。

雲城まちづくりセンターでは、比較的買い物や病院はほかの地域に比べて近いため、危機的というわけではない。あいのりタクシーを利用している人が多いが、2人以上で乗らなければいけない条件がネックになっているそうである。

二反田団地では、参加された高齢の方からいろいろな提案を受けたが、いよいよ困っていると、いった危機的状況でもない印象を受けた。

美川まちづくりセンターでは、弥栄に帰っていく石見交通のバスが空っぽなので、そういった回送バスも利用したらどうか、もったいないという意見があった。もう一つは、通勤、通学、買い物を兼ねた8の字の浜田西地区の巡回コースを内回り外回り

で運行できないだろうかと言われた。それが良い形になれば、今度は浜田東地区の巡回コースなども市として取り組めたらすごく良いと言われた。

それから、避難指示が出たときに、要介護や要支援、障がい者の方々の移動手段がないので対応が不十分だと言われた。また、そういった方々に手助けが必要な場合には、バスに福祉委員に乗ってもらうようなことも考えたらどうかと言われていた。

○芦谷委員長

私が聞いたことも今まで委員が言われたことと重なっているので特徴的なことだけ言うと、あいのりタクシーは2名以上となっており利便性が悪いという話が石見でも周布でも出た。周布地区ではあいのりタクシーを検討していたようだが、できないという結論になったと聞いた。

和田まちづくりセンターでは、敬老福祉乗車券が高速バスに利用できるようになったのがベストヒットだったとの評価をいただいた。予約型乗合タクシーは利用が減ったり、利用することに違和感を持つ人が多いと聞いた。スクールバスへの一般の人の乗車を認めてほしいという意見もあった。

黒沢まちづくりセンターでも、使い方が不便だと、早く検討すべき課題だという指摘があった。もう一つ、三隅駅の問題だと思うが、JR、石見交通、ひゃこるバスの連絡が悪いという意見もあった。また、敬老福祉乗車券については、地域条件に合わせてめりはりをつける。つまり、現在は2種類に分かれているが、もう少し距離等によってめりはりをつけてほしいといった要望があった。報告は以上である。

委員から報告してもらった。今後の方向性だが、これを分野別に整理してまとめるのかどうするのか。交通問題についての課題はおおよそ分かったような気がするが、今までの説明を聞いて質問や思い直すことなどがあれば出してほしい。

○岡本委員

五つの地区で地域交通の話をしたときに、意外と自分が思うような強い反響ではなかったと思っている。市境の地区の邑南町や益田市との関係、またまちづくり委員会間関係の課題はあるが、あとは地域が自主的に解決される場所に向けて我々が介入してどうなるのだろうか。理由や原因や対応については執行部に伝えることも必要だろうし、細かいところは地域や執行部に任せるところであり、地域交通に関しては市境の問題以外に大きく取り上げるものはないように私は思った。皆はどう思われているか。課題と考える部分があれば総務文教委員会で関わっていかなければいけないだろうが、地域の力を信じていくことも必要だろうと思っている。皆の意見を聞きたい。

○芦谷委員長

今出たことに対する意見でも、各委員の思いでも、何かあればお願いする。

○沖田副委員長

確かに今回の地域井戸端会において、地域交通がとても必要だという意見は正直少なかったと思っている。ただ、参加者が男性に偏っていたことが若干気になるころではある。というのも、私の地域でもそうだが、女性は必要と言うが、男性は乗る

人がいない。免許返納が一番ピークになるのがいつなのかということはあると思うが、そうってからでは遅いと思っている。これは中山間地域で必要なのだろうと思うが、意外と他の自治体を見ると民間の活力を使って大都市圏でもデマンド交通を導入しているのだから、要るか要らないかで言えば要ると思う。ちなみに民間でフランチャイズの一つの目安は、車1台にかかる経費が300万円くらいらしい。現在浜田市のまちづくり団体が39で、掛ける80万円の予算を全部使った場合にかかなりの金額になると考えたときに、財政的に今の制度でまちづくり団体がどんどん立ち上がり、皆が導入したらすごいことになるのではないかと客観的に見て思う。これは重要な課題ではないかという気はする。

○村武委員

地域交通は大きな課題だと考えている。先ほど岡本委員が言われたように、地域で対応できる場所もあると思うし、まちづくりの視点で考えるともう少しまちづくりをうまくやっていけるようになれば、こういう課題が解決する場所もあると思うが、まちづくりの活動がうまくいってない場所もあることを考えると、買い物や通院の交通手段は本当に必要だと思う。例えばまちづくりセンターに行ってサロンに出席したり体操をしたりすることも必要だが、それも交通手段がないので行けないといったことがあると思う。あいのりタクシー事業もずっと使っていけばより良い事業なのかもしれないが、私が感じたのは、あいのりタクシー事業についてきちんと理解されているところばかりではなく、むしろ少ないように感じている。例えばまちづくり委員会の人でも理解が少ないことがあり、そうすると地域住民はもっと理解が薄い。このあいのりタクシー事業をもう少し進めていくのであれば、理解をきちんとしていく必要があると思う。

あいのりタクシー事業の料金を、まずまちづくり推進委員会が一旦立て替えて支払うのも負担に感じるということもあったし、いちいち申請して振り込むという事務作業も煩雑になるという話もあった。

あいのりタクシー事業を分かりやすく進めてほしいということも併せながら、m o b i などほかの手段を考えても良いと感じている。

○永見委員

予約型乗合タクシーとあいのりタクシーには違いがある。予約型乗合タクシーはドア・トゥ・ドアで玄関まで来てくれるが、ダイヤや行き先が決まっていることもあり利用しにくいところがある。あいのりタクシーはペアが要るのだが、利用する人が時間を調整できる。利用料金はあいのりタクシーのほうが予約型乗合タクシーよりも若干高額だが、周辺部から浜田市街に行くのも上限が決まっているのである程度安価に移動できる。利用者もしっかり状況を把握して使い分けしたほうが良いのではないかと思う。

金城の場合は石見交通が走っている路線があるので、あいのりタクシーや予約型乗合タクシーの利用が伸びない状況があると思う。

○西田委員

地域の自治会等で自治会輸送のような移動手段を主体的に考える場合と、石見交通やタクシー会社など以前からある民間の交通手段を活用する場合があります、いろいろなアレンジの仕方がある。地域によってやり方はいろいろと考えられる気はする。自治会輸送は、どうしても当初の考えが月日によって変化してくるので、課題がだんだん増えてくるネックがある気がする。

敬老福祉乗車券については、非常にありがたいという声をよく聞く。ただ地域によっては、同じ三隅地域の中でもまち中の人は短い距離で済むが、井野や黒沢地区の人は同じ冊数しか買えないのに、三隅のまちに行くだけで倍以上かかる。購入冊数に差を付けているが、不十分だとの声を聞いている。そこで出た案は、例えば三隅地域の場合は、全ての地区で想定される冊数分を一気に三隅支所に任せる。金城も旭も弥栄も想定される冊数を支所に任せて、支所の中で柔軟に取り扱ってもらえば、より効果的に敬老福祉乗車券が使えるのではないかという意見があった。

○芦谷委員長

話を聞くと、仕組みをつくったがそれが地域によって浸透し切れてないところもあり、住民の理解が足りないところもあり、制度間の整合性や、圏域外への移動といった問題もある。議員からは先進例としてm o b i の提案もあった。先進例ももう少し情報収集しながら、今は浜田だけの視点なので、ほかからの視点が入ればこの委員会も活性化すると思う。いずれにせよこのままではいけない。

岡本委員からは各まちづくり推進委員会や地域間の連携調整という話も出たが、地域井戸端会で問題提起した手前、これについては総務文教委員会で何らかの方向性を出す案件だと思う。

今後の進め方だが、初めに言ったように、出してもらった内容を、現況、課題、方向性をかいつまんで分野別に整理して、それを下敷きにしながら、場合によっては再度審議し、提案のあった先進例も学ぶことによって、取組課題の調査研究が促進されると思うが、今後どのように進めれば良いだろうか。

○岡本委員

整理について少し提案だが、地域井戸端会の内容については我々が共有し、執行部にも投げ掛けて、市民の意見を執行部はどう受け止めるのか、こういう考え方もあるのだということを含めて、執行部への投げ掛けをしてほしい。その流れの中で種類を分ける。

私が言いたいのは、総務文教委員会で取り組む形というのがぼんやりしてしまっている。地域がやっていく課題であって議会が提案していくような課題ではないという思いもある。総務文教委員会が執行部に対して、こういう課題についてはこういう提案があるというように持って行く方向が良いと思う。地域井戸端会で出た意見ももちろん参考にする必要はあるが、それをもつての議論にはなり得ないと思う。そのあたりを整理してほしい。

○芦谷委員長

地域井戸端会で三つの常任委員会を設定した意見交換のテーマについて、出た内

容を集約して、執行部に投げるのだろうか。

○村武委員

議会広報広聴委員会では、執行部に投げ掛けるというところは考えていない。

○岡本委員

意見を聞くだけで執行部には投げ掛けないのか。地域井戸端会で聞いた意見はどうするのか。

○村武委員

それは各委員会でやってもらえば良い。

○岡本委員

各常任委員会で考えることであって、総務文教委員会で投げ掛けることが決まれば投げ掛ければ良いということか。

○村武委員

はい。今回の地域井戸端会に関して言えば、市民から意見をいただき、各常任委員会から地域井戸端会の中でこういう意見があり委員会では今後こうしていくといった総括的な意見を各会場に掲示する。まずこれをつくらないといけない。

○岡本委員

これは総務文教委員会として出すということか。

○村武委員

はい。各常任委員会から出してもらおう。

○芦谷委員長

地域井戸端会のお礼と回答について、議会広報広聴委員長から各常任委員会への連絡はもうあったのか。

○村武委員

今からする。

○芦谷委員長

欄が少ないので、かいつまんで書くことになる。

○村武委員

はい。総括的な回答になると思う。

○松井書記

議会広報広聴委員長から来週の定例会議初日の全員協議会で地域井戸端会の報告があり、各会場に掲示する各委員会からの所感を委員会ごとにまとめてほしいと依頼がある。昨年度は会場ごとに皆違う内容だったが今年度は同じ内容にするので、総務文教委員会としては、地域交通についていただいた意見に対する所感と、自由意見への回答の二つをつくれば良い。これの締切りが6月28日だったと思う。総務文教委員会としては定例会議初日の委員会と、その翌週の委員会の中でどのような回答するかを協議、決定して議会広報広聴委員会に返さなければいけない。

○村武委員

総務文教委員会はたまたま取組課題と地域井戸端会のテーマが同じだったので今

このような話になっているが、今日の委員会に関して言えば、地域井戸端会でいただいたテーマを皆で共有して今後どのように調査研究するのかという協議だと思う。今日の協議は、地域井戸端会の回答とは違う内容だと思う。

○岡本委員

総務文教委員会が出された意見を協議して、地域井戸端会の所感としてまとめなければいけないのだろう。

○村武委員

地域井戸端会に関して言えば、まとめなければいけない。

○岡本委員

地域井戸端会では各々の意見もあれば改善要望もあったが、そういうものをどうするのか。改善の実施者は執行部だから、執行部に対してこういう要望が出たがどうなのかと聞かないと方向性も出ない。いただいた意見を尊重するなら細かいチェックが要ると思っている。そういう細かいことではなく、大枠で返せば良いというならそれだけを話せば良い。細かい部分は置いておいて次のステップに何をすべきか、何を目標に向かっていくかを協議すれば良い。

○西田委員

地域井戸端会については、委員会としてまとめて議会広報広聴委員会に提出するというのが一つの作業で、今後の取組課題については、最終的に委員会で方向性や提案などを出すことになると思う。それを今度は執行部に提案するかどうかという方向ではないだろうか。

○岡本委員

各まちづくりセンターで提案やいろいろな意見が出た。まちづくりに関わる回答があれば返さなければいけない、地域の問題については担当課に戻すという説明があったと私は認識している。そうすると、アバウトなものではなく細かい内容を返してあげないといけないのではないかな。

○芦谷委員長

皆に報告してもらったことについては分野ごとに整理して、課題、問題点、地域からの要望、場合によっては執行部にそのまま投げないといけないものもある。そのほかに関連する自由意見などもあった。これらを分野ごとに整理していけば、地域井戸端会へのお礼と回答にも対応できると思う。それによって次の取組課題の方向性も見えてくるような気がするがどうだろうか。

○村武委員

整理は必要だと思うが、それは今日出てきた委員の意見と地域井戸端会で出てきた意見を併せて整理するということか。

○芦谷委員長

はい。

○沖田副委員長

地域井戸端会の意見への回答と、我々が取り組んでいる取組課題は少し切り離し

て考えないといけない。まず地域井戸端会で出た意見だが、今少なくとも我々が取り組んでいるのは、地域交通をどうするかという話で、それをテーマに今回意見を聞いた。したがって、ここで出た意見を執行部に要望するのと、我々が出す答えは別物ではないかという気がしている。

最初にこの制度自体が大きな課題だと言ったのが、個人的に今あいのりタクシーを導入しているまちづくりセンターを個別に訪問したところ、事務局になっているのはほとんどがセンター長だった。事務局サイドから見たあいのりタクシーはどのような制度なのか尋ねると、今のセンター長がいなくなった後に事務局はどうなるのかという意見でかなり一致していた。つまり持続性がないということである。また、エリアの重複性もかなり問題だと思っている。旧那賀郡に至っては、三隅はひゃこるバスがあり予約型乗合タクシーもあるので、あいのりタクシーまで使う必要がないという意見が出たまちづくりセンターもあった。総じて考えると、同じ地区に同じような制度がたくさん走っている。ものすごい予算である。それにあいのりタクシーまで導入したら、地域交通だけで浜田市は一体いくら使えば気が済むのかということになる。敬老福祉乗車券はふるさと寄附から充てているので、地域交通の予算に含まないと担当課は言うが、それを含めたらとてつもない金額である。それよりはもっと効率的な交通形態を1本つくったほうが良いのではないかと。さらに持続性を確保しようと思えば、やはりm o b i やチョイソコといったサービスを導入したほうが、より予算的にも効率的だし、特に旧浜田市内では効果があるのではないかとと思っている。

今回いただいた意見を踏まえながら、我々としてそういう答えを出していくのが取組課題なのではないかと思っている。

○芦谷委員長

暫時休憩する。

[10 時 52 分 休憩]

[11 時 18 分 再開]

○芦谷委員長

会議を再開する。休憩前に引き続いて進めたいが、各委員の思いもあり、整理する必要がある。今日出された意見や地域井戸端会の意見を踏まえて整理するので、6月25日の総務文教委員会で議論させてほしい。そのときには、ある程度先が見える形で提案しようと思っているので、よろしく願います。

2 その他

○芦谷委員長

市内施設の現地視察について提案する。委員から、浜田高校の学生寮と、このたび市が設置した県立高校3校の共同寄宿舍を見学してはどうかという意見が出た。担当課に確認したところ、6月13日の午前中に見学可能とのことだった。書記から説明

をお願いする。

○松井書記

日程等の案を説明する。明後日6月13日木曜日、午前10時から実施してはどうかと考えている。当日は浜田高校に現地集合。まず浜田高校の寮を見学し、その後徒歩で移動して、このたび新設された市の共同寄宿舍を見学してはどうかと思っている。学校教育課の職員が同行してくれる。所要時間は2つの施設を合わせて1時間程度で、終了後は現地解散を考えている。

○芦谷委員長

今提案があったように、6月13日午前10時に現地集合、現地解散。所要時間はおおむね1時間だが、このことを決定してよろしいか。

(「はい」という声あり)

では、よろしくをお願いします。

以上で総務文教委員会を終了する。

[11 時 22 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員会委員長 芦谷英夫